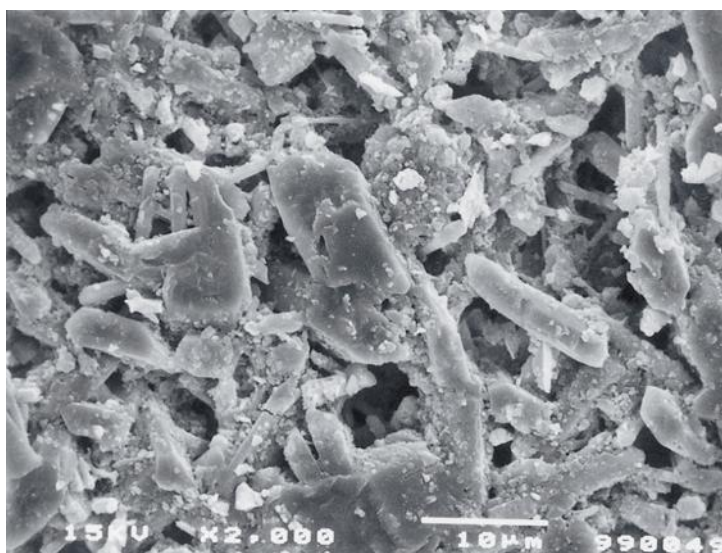


## シラス壁表面形態

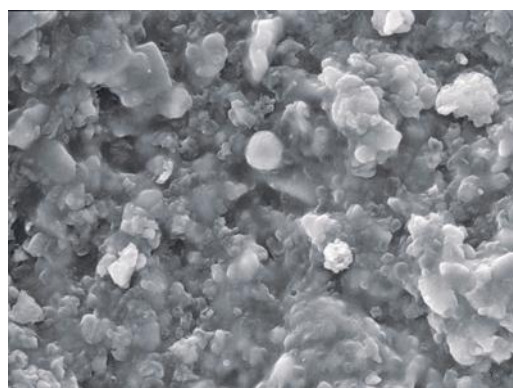
シラスの70%を占める非結晶を構成する多孔質が、その表面積をさらに多次元に広げることから、シラス壁の表面は、人工的に生成された素材では考えられないほど広く、緻密で奥行きのある構造を形成しています。

また、当社のシラス壁は、材料精製時に二次焼成せず、シラスをそのままの形で利用しています(特許取得済)。よって、シラスの多孔質構造を壊さないため、吸着・吸湿性の効果を最大限に発揮することができるのです。



〈写真1〉シラス壁 2000倍(二次電子像)

シラス壁の表面の顕微鏡写真を見ると、極めて複雑なスキ間、空洞に満ちており、表面積を限りなく大きくしているのが分かります。



〈写真2〉某社珪藻土壁の表面